

平成 27 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

豊かな教養と深い技術を身につけ、自ら学び、自ら考える力を備えた、心身ともに健康で社会の変化に対応できる人間性豊かな工業人を育成する。

2 学校の特色

(1) ものづくりの心を育む教育活動

本県における「ものづくりの中核校」として、創造的なものづくり活動や資格取得、各種コンテストへの参加など積極的に取り組むとともに、地域産業との連携などを通して、21 世紀の産業界をリードするスペシャリストを育成している。

(2) 地域社会に根付いた学校教育

全員参加によるインターンシップ体験や工場見学を推進する他、五福児童館祭りなど各種地域イベントへの参加や小学生ものづくり教室の指導など、地域社会との積極的な関わりを通してキャリア教育を推進し、高い職業観、勤労観を身につけた工業技術者を育成している。

(3) 活気あふれる特別活動

生徒会活動や学校行事、部活動などに積極的に取り組ませることで、自らの能力を十分に発揮させ、個性あふれる、協調性を備えた人物を育成している。

3 学校の現状と課題

〔現状〕

- 学年 8 クラスの大規模校になって競争意識が強まり、互いに切磋琢磨しようとする雰囲気が高まっている。
- 各学科では、学習意欲の高揚や将来の職業選択に向け、検定の合格や資格取得を目指して熱心に取り組んでいる。
- 大多数の生徒が部活動に加入しており、ロボットなどのものづくりや文化活動、運動競技に積極的に取り組み、全国大会で入賞するなど、大きな成果を上げている。
- ここ数年、就職希望者の割合は増加しており、約 75%の生徒が就職し、そのほとんどが地元の手製造業に勤務しており、離職率も低い。また、約 25%の生徒は、各自の専門性をさらに高めるため、国公立大学をはじめ、主に工業系の各種学校に進学しているが、自らの可能性を試そうと、在学中と異なる分野にチャレンジする者もいる。

〔課題〕

- 地域産業の担い手として身につけるべき技術・技能、考え方や先端技術に挑む進取の気概をさらに育成させるための授業の在り方について研究する必要がある。
- 地域社会の人々と幅広く関わる機会を一層充実させ、地域の期待に応えていくことが必要である。
- 自己の将来像を描き、在り方生き方についての考えを深めさせるため、ふるさと教育を進めるとともに、企業研究、インターンシップ、資格取得に関わる指導などについて、内容や方法を検討し、更に充実させる必要がある。
- 異なる学習歴などにより学力差が拡大しており、学び直しなど工業高校生に必要な基礎学力の定着を図る必要がある。

4-1 学校教育計画(全日制)

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点1	目標	○ 資格取得を通して、学習意欲の向上と学習習慣の定着を図る。
		計画	○ キャリア教育推進の一環として、従来から工業各学科で取り組んでいる国家資格や各種検定への取組みを充実させる。 ○ 資格取得やジュニアマイスター制度、顕彰制度などの啓蒙を行う。 ○ 各種検定や資格取得を目指す学習を継続することで、学習習慣の確立や学習意欲の向上を図る。
2	学校生活 重点2	目標	○ 広い視野で社会を捉え、「自ら考え、善悪を正しく判断し、適切な行動ができる生徒」を育成する。
		計画	○ 全教職員が、生徒指導に関する考え方を共有し、共通理解を深め、教育のあらゆる場面を通して生徒と協力して、その実現に向け努力する。 ○ 地域や家庭、関係諸機関との連携を密にし、生徒の健全な生活習慣の確立に努める。 ○ 愛校心を育み、生徒が誇れる学校づくりを進める。
3	進路支援 重点3	目標	○ 社会での使命を自覚させ、生徒が自己の能力・適性を見つけ出し、その役割を果たすよう自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるように指導する。
		計画	○ 学年、各学科と連携し、学校全体の指導を通して、生徒と保護者が納得できる進路決定を行えるようにする。 ○ インターンシップや工場見学、応募前職場見学を通して企業について理解し、勤労意欲や社会人のマナー等を学ばせる。 ○ 進路希望調査、面談などにより生徒の実態を把握し、講師を招いて講話会を開くなど、進路意識や職業観を養う手だてとする。 ○ 進路説明会や保護者懇談会などの機会を通して本校の進路指導の現況を保護者に知っていただく。 ○ 進学希望者に対しては、外部模試等で自分の力を把握させ、進学と進学後のために基礎学力と勉強習慣を身につけさせる。
4	特別活動 重点4	目標	○ 生徒会が中心となり、代議員会を通して生徒達の意見を基に学校行事等における自主的で活発な活動を推進する。 ○ 生徒会活動や部活動を通し、自主的自律的な生活態度を養うとともに、成就感や達成感を体験させる。
		計画	○ 生徒会とホームルームの連携を強め、アンケート調査をもとに学校行事の内容や実施方法について代議員会等で、十分に検討し生徒の参加意欲の向上や活性化を図る。 ○ 全員部活動加入を通して、生徒一人一人が成就感や達成感を味わえるよう個々に目を向けた活動を心掛ける。また、部の運営や部室の使用、活動場所の環境整備等について自主的に改善されるよう啓発する。
5	その他	目標	○ 健康で安全な生活をするため、自己管理する態度を身につけるよう指導する。 ○ 生徒が心身ともに健康に活動できるように教育相談を行う。 ○ 図書館の活用を指導し、自主的学習活動の促進を図る。 ○ 生徒の情報活用能力やプレゼンテーション能力を高めるため、各種資格検定のための学習環境や、情報関連機器の利用環境を整える。
		計画	○ 生徒の保健的意識を高め、自主的に健康を管理する習慣を育成す

			<p>るため、個別指導や健康教室を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係を育て、生徒が悩みや問題を自らの力で解決できるよう助言し、心身共に健康な人間を形成するための支援を行う。 ○ 読書習慣が身に付くように、ホームルームの年間指導計画に「読書会」を設ける。 ○ 授業での情報室の利用や、課題研究発表会などでのプレゼンテーション能力を養うための情報関連機器及び視聴覚機器の利用など、効果的な情報教育を積極的に支援する。
--	--	--	---

4-2 学校教育計画(定時制)

項目		目標・方針及び計画	
(1)	学習活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の生徒の学力に応じた指導を各教科間で連携を図りながら模索し、学習意欲を喚起する授業を展開し、基礎学力の向上を目指す。 ○ 工業に関する科目において、実技を中心とした授業を展開することで、ものづくりの精神に根ざした自己実現を目指す教育を推進する。 ○ 課題解決力の醸成を計るとともに、安全作業をよりどころとして、工業に関する基本技能の習得および基礎知識の理解を目指した授業を展開し、自己達成感が実感できる教育を推進する。
	重点1	計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 工業高校の特色を活かすことはもとより、生徒個々の学力向上および進路意識の昂揚に配慮し、普通教科と専門教科の調和がとれた教育課程を編成する。 ○ 個々の生徒の実情を踏まえて、各種検定試験に合格できる力の養成を目指した個別指導や継続的な補習を計画する。 ○ 生徒ひとりひとりが理解を深めることができるよう、個々の生徒の学力に応じた指導の工夫を計るとともに、落ち着いて授業に参加できる環境を整備する。 ○ 生徒の自己肯定感の醸成を計るため、生徒自身が製作した作品や授業で学習した内容について発表する機会を設定する。
(2)	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主自立の精神の醸成に努め、社会人として必要な規則やマナーを遵守する態度の育成と規律ある基本的生活習慣の確立を目指す。 ○ 健康と命の大切さを認識させ、自らの健康管理と事故防止に努める能力と態度を育成する。
	重点2	計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者と緊密に連携し、職員全体で生徒の生活指導にあたる。 ○ 交通安全に関する行事や指導を定期的実施し、交通マナー向上や交通規則遵守を図り、事故防止に努める。 ○ 健康診断や健康相談を通して、自らの身体の状態を把握させる。 ○ 保健指導や食事指導を通して、適切な行動選択ができるように促す。 ○ 「保健だより」や「給食だより」の発行を通して、健康で安全な生活や正しい食生活に対する意識を高める。
(3)	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの生徒が「働きながら学ぶ」という定時制の実態をふまえ、生徒の望ましい職業観や職業意識、主体的な職業の選択能力を高めるよう指導・支援する。

		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路に関する情報収集に努め、職業安定所など関係機関との連携を密にして生徒に対する進路指導の充実を図る。 ○ 学級担任・進路指導担当者と保護者との連携を密にするとともに、面接指導等を充実させ、生徒個々に適した進路指導に努める。
(4)	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別活動を通して、日々の生活を有意義に過ごすための動機付けを行う。 ○ 日頃読書に親しむ機会が少ない生徒に図書館の活用を指導し、併せて職場の仕事に必要な自主的学習活動の促進を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会（執行部・委員会・ホームルーム）の自主的な活動を促し、自主活動醸成の場とする。 ○ 特別活動の活性化を図り、部活動や生徒会行事に対して意欲的に参加する生徒の増加を目指す。 ○ 図書および視聴覚の充実と利用の促進を図る。 ○ 生徒の興味を引き、創造性を高める図書を選定する。 ○ 読書の習慣が身につくように、年間計画に読書会及び読書感想文コンクールを設ける。
(5)	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育目標達成のため、定時制特質及び生徒の実態をふまえて、全職員の共通理解のもと円滑な校務運営に努める。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員間の情報共有と共通理解を大切にし、個々の課題に対して主務を中心に全職員で対応する。 ○ 部、科、学年間の連携と調整を図り、効果的な校務運営をすすめる。

5-1 今年度の重点課題（全日制）

平成27年度 富山工業高校アクションプラン -1-	
重点項目	教科指導の充実
重点課題	工業高校生としての学力の向上
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学科では、専門分野に関する検定合格や資格取得に向けた補習を行っている。また、専門分野外の英検、数検ほか検定受検者も増加傾向にある。 ○ 平成26年度は延べ1776人が各種検定や資格試験に合格している。一人平均の資格取得数は1.86となる。
達成目標	一人当たりの検定合格または資格取得数 一人平均 2.00
方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内指導体制の改善・充実と外部の専門技術者の招聘や活用を図る。 ○ 朝学習などの時間の有効活用により学習時間の確保を図る。 ○ ジュニアマイスター制度および単位認定制度の周知徹底を図る。 ○ 検定合格や資格取得を目指し、学習意欲の向上や学習習慣の定着につなげる。

平成27年度 富山工業高校アクションプラン -2-	
重点項目	生徒指導の充実
重点課題	規範意識を持った節度ある生活を確立させる。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自転車や携帯電話・スマートフォンのマナー違反には罪悪感を感じず、違反を繰り返した結果、交通事故に遭ったり、校内での携帯電話・スマートフォンの使用で指導を受けたりする生徒が後を絶たない。いずれも使い方を誤った際の影響を認識させ、生徒の安全確保の観点から正しく使用させる必要がある。 ○ 挨拶、身だしなみについては形式的な面はあるが、良い習慣として定着している。自律心を持って日常生活を送らせることで、実質的な行動ができる生

	徒を育てたい。そして、生徒が誇れる生徒・学校づくりを推し進め、愛校心を育む。
達成目標	交通事故件数、携帯・スマートフォン使用に関する指導件数の低減。 昨年度比1割減
方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ サイクル安全リーダーによる、自転車乗車マナー向上の呼びかけ、自転車点検、駐輪場整備を通して交通安全意識の向上を図る。 ○ 学校周辺にて登校指導を随時行う。 ○ 保護者や地域の方と協議する場を設け、現状の問題点と対策を共有して、多方面からの指導を実践する。 ○ 来年度100周年の節目を迎えるにあたり、その伝統に誇りを持たせながら、よりよい富山工業高校を築いていく自覚を持たせる。

平成27年度 富山工業高校アクションプラン -3-	
重点項目	進路指導の充実
重点課題	生徒の希望に対応した進路決定
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度は、高等学校再編統合により学年が6学科8クラス編成となって三回目の卒業生を送り出した。生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させ、生徒自らが進路を選択できるように、段階に合わせて指導すると共に、その進路先に適応し、自己実現を図っていく上で必要な諸能力（基礎学力、計画性、判断力、適応力など）の向上に努めることが重要である。
達成目標	3学年における進路希望の達成度 (就職・進学を合わせた第1希望合格率) 90%
方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業訪問や情報収集を積極的に行い、生徒の就職先の確保に努める。 ○ インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが企業についての情報を収集し、その上で就職先を決定させる。 ○ オープンキャンパス、学校説明会など積極的に参加し、進学先を決定させる。 ○ 資料閲覧室の利用しやすい環境を整え、資料閲覧や相談に対応する。 ○ 面接指導、補習など各教科、各学科の協力を得てきめ細かい指導をする。

平成27年度 富山工業高校アクションプラン -4-					
重点項目	特別活動の活性化（生徒会活動と学校行事）				
重点課題	生徒会・代議員会を中心とした学校行事の活性化				
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育大会、球技大会、富工展などの学校行事に対する生徒の意識は高く、協力的に行事を推進することができる。これまでの行事では生徒会や教師が中心的役割を果たしてきたが、代議員会等を活用して生徒達の意見を積極的に取り入れ、生徒達の自主的な計画・立案・運営・活性化を推進する。 				
達成目標	<p>体育大会、球技大会において生徒会を中心として、生徒が自主的に学校行事の企画・運営に取り組み、全校生徒が意欲的に参加し、満足できるような活動を目指す。 (※事前事後のアンケート調査における、全校生徒に対する百分率とする。)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">運営・企画に積極的な参加意識度</td> <td>体育大会70%、球技大会60%</td> </tr> <tr> <td>学校行事に対する満足度</td> <td>体育大会90% 球技大会90%</td> </tr> </table>	運営・企画に積極的な参加意識度	体育大会70%、球技大会60%	学校行事に対する満足度	体育大会90% 球技大会90%
運営・企画に積極的な参加意識度	体育大会70%、球技大会60%				
学校行事に対する満足度	体育大会90% 球技大会90%				
方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育大会に向けて代議員会・運営委員会・団集会・係り打ち合わせを複数回開き、学校全体（生徒）の意見を集約し、プログラムや競技規則、配点方法の見直しを実施する。 ○ 球技大会について生徒会が中心となり、代議員を通じてホームルームの意見をまとめ、かつ体育委員、関係部活動部員などが意欲的に企画・運営に参加し満足できることを目指す。 				

5-2 今年度の重点課題（定時制）

平成27年度 富山工業高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動
重点課題	基礎学力の向上と各種資格取得の推進
現 状	○ 高校入学以前の学習面のつまずきや集団生活への不適應による基礎学力の不足から、学習意欲に乏しく、授業への参加も消極的である。特に、高校生として求められる漢字や文章読解力、計算能力や物事を論理的に考える力、および生活するうえで必要と思われる一般的な教養については、個人差はあるが身についていない生徒が多い。
達成目標	全国工業高校長協会主催の資格や国家資格に1つ以上合格する生徒の割合 60% 以上
方 策	○ 各教科間で連携して継続的な指導を行うことにより、学習習慣の確立を目指し、基礎学力の向上を図る。 ○ 個々の生徒の学力に応じた目標を設定し、自作教材を用いて学習させる。 ○ 生徒が受検を希望する検定に応じた補習等を実施し、合格に必要な知識の理解と定着を図る。 ○ 学校設定科目「生活技能」を活用し、基礎学力を礎にした工業の専門的な知識や技能の習得、および社会生活に必要なマナーや教養を身に付けさせる指導法を工夫する。

平成27年度 富山工業高等学校アクションプラン -2-	
重点項目	学校生活
重点課題	基本的な生活習慣の確立
現 状	○ 家庭生活や生育歴、社会生活状況において様々な問題点を抱えている生徒が多く、学校の時間帯に合わせた生活設計が困難であったり、適応性の問題から規則やマナーを遵守する態度が欠けていたりする傾向にある。また、授業遅刻や早退も少なくない。 ○ 一方で生徒の中には、きちんとした高校生活を歩もうと努力している姿も見られ、働きながらも年間を通じ無欠席の生徒も存在する。こうした生徒たちには、毎日登校する習慣を大切に、自分の将来を考えている向きが感じられる。このように目標と向上心を持って、自律性を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず学校生活の充実へ繋がると考える。
達成目標	年間の皆勤・精勤生徒の割合 30% 以上 (平成23年度：21%、24年度：20%、25年度：32%、26年度：26%) *皆勤 = 一カ年の欠席が0日 *精勤 = 一カ年の欠席が3日以内 (皆勤・精勤においては欠課時数4で欠席1日として換算する)